



### 親と子

島で子育てをする親たちは、遠くない将来に島立ちを控えた子どもたちのために、時に厳しく、時に優しく炊事や洗濯、心構えなどを少しずつ教えていきます。

まだ幼さの残るわが子たちに、どんな思いで島立ちを伝え、どんな思いで見送るのか、その寂しさと不安は察するに余りあります。かけがえのない子どもたちを送り出した母親たちの声に耳を傾けます。

# 伝統と文化の島立ち



## 海星中学校

### 郷土芸能や文化を重んじる海星中学校の島立ち

海星中学校では、卒業生7人を含む生徒全員が地元伝統芸能に参加していました。長浜地区の「出羽踊」、青瀬地区の「青瀬ヤンハ」、鹿島地区の「鹿島太鼓」。

卒業生には出身者がいなかったものの西山地区には「シアノーノー」もあります。これだけ多彩な郷土芸能への関わりは、下甌島の広い郷土の中で、複数の地区から子どもたちが集まる海星中学校



出羽踊



青瀬ヤンハ

ならではなのです。また、海星中学校の子どもたちは、道を行く人だけでなく、通り過ぎる車にまでお辞儀をします。時には、後ろから接近する車に振り返ってまで深々とお辞儀をする姿は、下甌を訪れた人なら一度は目にし、感動すら覚えたことでしょう。

それは、車通りの比較的多い道路を歩いて帰るといいう海星中学校の立地と礼節を重んじる校風のためなのなのです。



鹿島太鼓

### 高山晴さんの母 舞子さんの声

幼稚園から甌島で過ごしていた晴は、運動が好きで明るい子です。

身の回りのことは特に教えることもなく、小さい頃からやってきて、むしろ料理は好きで簡単なものはよく自分で作って食べていました。

海星中学校では、上下関係があまりなく、1年生も3年生もみんなが友達のような関係でしたので、高校で先輩後輩の関係がちゃんと築けるかは少し心配しています。

私も甌島で育ち、島立ちを経験していて、不安よりも楽しみだったことをよく覚えていますので、晴もきっと同じような気持ちだと思います。

すでに将来やりたいことを持って、そのために川内商工高校を選んだようなので、部活動も含めて高校生活を純粋に楽しんでもらえたらいいと思っています。

### 前多夏海さんの母 彩子さんの声

夏海は、生まれたときからずっと甌島で育ちました。人前ではしっかりしている反面、実はあがり症、弱いところもあるのに気を張っているので、一人になったときのことを少し心配しています。

進学する川内高校では、今まで少人数では学べなかったこと、いろいろな人がいるということ、その多様な社会や世界を学んでほしいと思います。

将来は、単純に甌島に帰ってきてほしいとは思いませんが、島には何もなければ住まないという理由ではなく、社会、日本だけでなく世界を見て、どこでもやっていける、生きていけるということを学んで、そしてそんな自分になって、将来生きるその場所の選択肢の一つに甌島があればそれでいいと思っています。

### 東柊仁さんの母 円さんの声

柊仁は、5人兄弟の真ん中で、海星中学校では、リーダーシップを発揮して生徒会長も務めさせていただいた責任感のある優しい子です。

進学する川内高校では、自己中心にならずに、良い意味で周りを気にしながら過ごしてほしいと願います。

友だちができるかなとか先輩とうまくやっていけるかななどは心配していません。卒業後、何をするのか、まだ見えていないことが少し気がかりですが、あの子ならきっと大丈夫と信頼しています。

兄の2人が先に島立ちし、すでに県外に就職していますので、本音としては、柊仁には、甌島に帰ってきてほしい、せめて県内など近くにいてほしいという思いがありますが、今は、ただ、無事に卒業さえしてくれたらという思いでいます。

### 7人の島立ち

昨日のことのように思い出す海星中学校への入学から、あっという間に三年の月日が流れました。笑ったり、泣いたり、いろんなことを経験し見違えるように成長しました。島立ちは、別れではなく、未来へ向かって切る新しいスタートの象徴です。

伝統と文化に彩られた海星中学校の卒業生7人は、甌島で学んだことを誇りに、それぞれが目指す夢へ向かって島立ちをしていきました。

#### 海星中学校卒業生

- ・山下 瑛士
- ・瀧上 彩花
- ・福嶺 日菜
- ・東 柊仁
- ・岩崎 隼人
- ・前多 夏海
- ・高山 晴